

—10年先をみれば、非常に重要になるでしょう。El-Nino は、非常に大きな信号ですし、CO<sub>2</sub> にとっても、海洋は重要です。しかし、私たちのところは、当面は、大気だけでやってゆきたいと思います。我々は、大気ですら、完全に理解していないのですから。我々の仕事で、「熱帯が完全に中緯度を支配している」という人が居ますが、それは、全く誤りで、中緯度には、解明されていない様々な現象があります。

問：若い人達に云いたい事はありますか？

—学生が、博士課程に進学するか否かを相談する時に、いつもいう言葉をのせましょう。もし、お金を稼ぎたいのなら、今すぐ別の所へゆきなさい。科学の楽しみは、一生懸命頑張って、ある idea を得、それをまとめ、何かを発見し、それが、何らかの意味で社会に還元されていくことにあります。このようなことで、報われているというわけです。

問：日本の気象学についてはどう思っていますか？

—私がアメリカにいた時に、何とおおくの、数値モデルの先達が、日本人であることに驚きました。もう一つは Matsuno を代表とする理論グループの活動で、非常に強く、印象づけられました。

問：最後に、日本の会員の人々に一言？

—I look forward to see you.!

前に会議で会った時は、精やかな顔付きで、近より難い人物かなあ、と思っていたら割と気さくな人でした。新しい再評価プログラムが進行中の今、新興レディング大学に抛り、既成の権威たる Oxford, Cambridge に抗して、頑張っているところはあつぱれ好漢 Hoskins という感じです。5時になると、ヘルメットをかぶって、bike で家に飛んで帰ってゆく姿が印象的でした。

(住 明正)

### 日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
Scale Modeling 国際シンポジウム	1988年7月18日 ～22日		東京	Vol. 34, No. 6
国際シンポジウム第3回 流れのモデル精度向上化	昭和63年7月26日 ～28日	同組織委員会, 他	日本都市センター	
第27回 COSPAR 総会	1988年7月18日 ～29日	宇宙空間研究委員会 (COSPAR)	フィンランド, ヘルシンキ およびエスプー	
国際オゾン・シンポジウム	1988年8月8日 ～13日	IAMAP オゾン委員会	西ドイツ, ゲッチンゲン (ゲッチンゲン大学)	Vol. 34, No. 1
Postgraduate Summer School on Microwave Remote Sensing for Oceanographic and Marine Weather-Forecast Models	1988年8月14日 ～9月3日	EARSeL	イギリス・スコットランド Dundee 大学	
国際放射シンポジウム	1988年8月18日 ～24日	IAMAP 放射委員会	フランス, リール	Vol. 34, No. 1
第6回エアロゾル科学・技術研究討論会	昭和63年8月23日 ～25日	エアロゾル研究協議会	大阪市立労働会館	Vol. 35, No. 2
数値モデルの系統的誤差に関するワークショップ	1988年9月19日 ～23日	WMO	カナダ・トロント	
The 2nd International conference on Atmospheric sciences and Applications to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9
日本気象学会 昭和63年度秋季大会	昭和63年10月26日 ～28日	日本気象学会	宮城県民会館	Vol. 35, No. 5
第26回粉体に関する討論会	昭和63年10月27日 ～29日	同討論会	石川県社会福祉会館	Vol. 35, No. 4
大型レーダー国際学校	昭和63年11月24日 ～28日	京都大学超高層電波研究センター	京都市・烏丸京都ホテル	Vol. 35, No. 4
第10回風工学シンポジウム	昭和63年12月1日 ～2日	同運営委員会	東京・中央大学理工学部	Vol. 35, No. 4